



気象庁

大阪管区気象台

Osaka Regional Headquarters, JMA

報道発表

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和4年2月25日
大阪管区気象台

「近畿・中国・四国地方の各府県版気候変動リーフレット」を 作成しました

地域のこれまでの変化（観測）と将来変化（予測）に関する最新の科学的知見を近畿・中国・四国地方の府県ごとにまとめた気候変動リーフレットを作成しました。

気象庁は、日本の気候変動について、これまでに観測された事実や、パリ協定の2℃目標が達成された場合及び追加的な緩和策を取らなかった場合にあり得る将来予測を対応させてとりまとめ、令和2年12月に文部科学省とともに「日本の気候変動2020」として公表しています。

大阪管区気象台では、地域における気候変動対策を支援するため、「日本の気候変動2020」に基づき最新の知見を取り入れる形で、近畿・中国・四国地方各府県の気候変動リーフレットを作成しました。本リーフレットは、主に気温と降水について、これまでの変化（観測）と将来変化（予測）の両者を盛り込み、お住まいの府県における現在の状況と将来起こりうる変化を合わせてご覧いただけます。

詳細は別紙をご覧ください。別紙は大阪府の例です。

本リーフレットの電子版（PDF ファイル）は大阪管区気象台ホームページ内の地球温暖化に関するページでもご覧いただけます（以下の URL 参照）。また、同ページは、地球温暖化に関する最新の知見に基づく内容に更新していますので、是非ご利用、ご活用ください。

近畿・中国・四国地方各府県の気候変動リーフレットは各地方気象台から公表しますので、そちらもご利用、ご活用ください。

大阪管区気象台ホームページ | 「地球温暖化について」の URL

<https://www.data.jma.go.jp/osaka/kikou/ondanka/ondanka.html>

問合せ先：大阪管区気象台 気象防災部 担当 和田

電話 06-6949-6653（内線 5380）

大阪湾の高潮

日本沿岸における高潮の発生数や大きさには、有意な長期変化傾向は見られません。21世紀末における大阪湾の最大潮位偏差※1は大きくなると予測されます※2

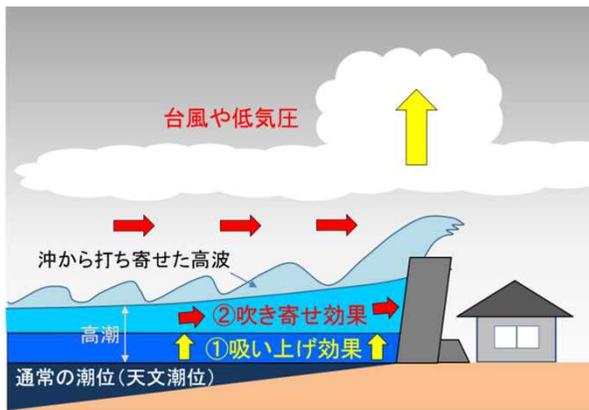
潮位偏差の将来予測によると、大阪湾では、小規模な高潮の数は減少するものの、**大規模な高潮の頻度が増加する**と予測されています。※3
(『日本の気候変動2020』本編第19章より)

- ※1：潮位偏差 天体の動きから算出した天文潮（推算潮位）と気象などの影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）。
※2：確信度は中程度（詳細は上記資料参照）。2℃上昇シナリオ及び4℃上昇シナリオによる。
※3：確信度は低い（詳細は上記資料参照）。4℃上昇シナリオによる。

高潮は、主に台風や発達した低気圧の接近に伴い、吸い上げ効果や吹き寄せ効果などにより、海面が異常に上昇する現象で、**短時間のうちに急激に潮位が上昇**することがあります。

①気圧低下による吸い上げ効果
台風や低気圧の中心付近では気圧が低いため、その部分の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1hPa低くなると、海面は約1cm上昇します。

②風による吹き寄せ効果
台風等による強風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に吹き寄せられ、海面が上昇します。



(気象庁パンフレット「高潮と高波から命を守るために」より)

全国の情報はこちら

「日本の気候変動2020」（文部科学省・気象庁、令和2年12月公表）



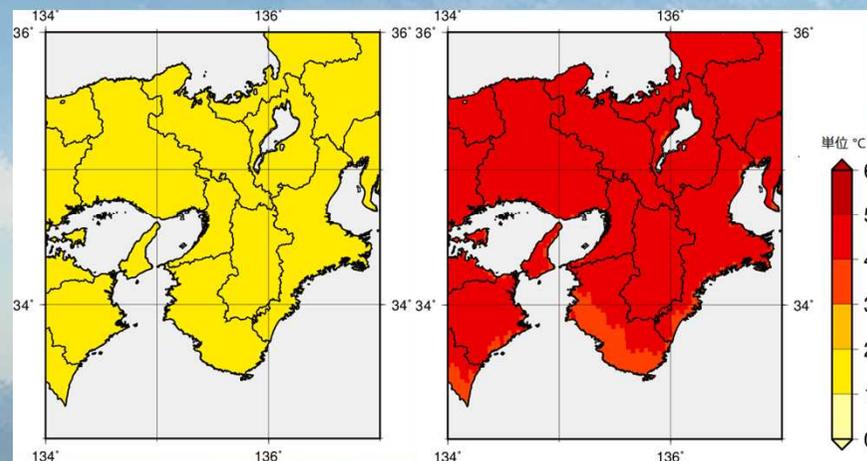
お問合せはこちら

大阪管区气象台
〒540-0008 大阪市中央区
大手前4-1-76
大阪合同庁舎第4号館
担当：地球環境・海洋課
電話：06-6949-6653

大阪府の気候変動

「日本の気候変動2020」（文部科学省・気象庁）
に基づく地域の観測・予測情報リーフレット

大阪府の年平均気温の将来予測（21世紀末）



2℃上昇シナリオでは
大阪府の気温上昇は
約1.3℃に！



4℃上昇シナリオでは
大阪府の気温上昇は
約4.2℃に！

このリーフレットでは、20世紀末※と比較した21世紀末※の将来予測を、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書（AR5）で用いられた以下2つの代表的濃度経路（RCP）シナリオについて示しています。
※ 20世紀末：1980～1999年の平均、21世紀末：2076～2095年の平均

2℃上昇シナリオ（RCP2.6）
21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2℃上昇。
パリ協定の2℃目標が達成された世界。

4℃上昇シナリオ（RCP8.5）
21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4℃上昇。
追加的な緩和策を取らなかった世界。

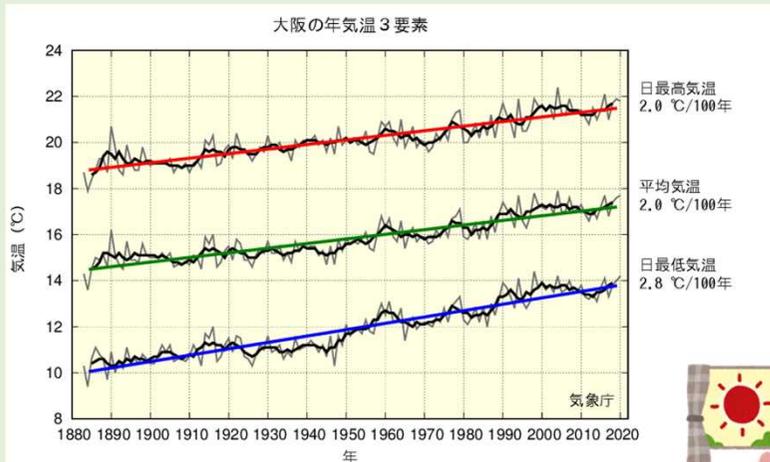
令和4年3月
大阪管区气象台

これまでの変化

気温の変化

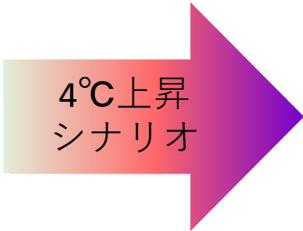
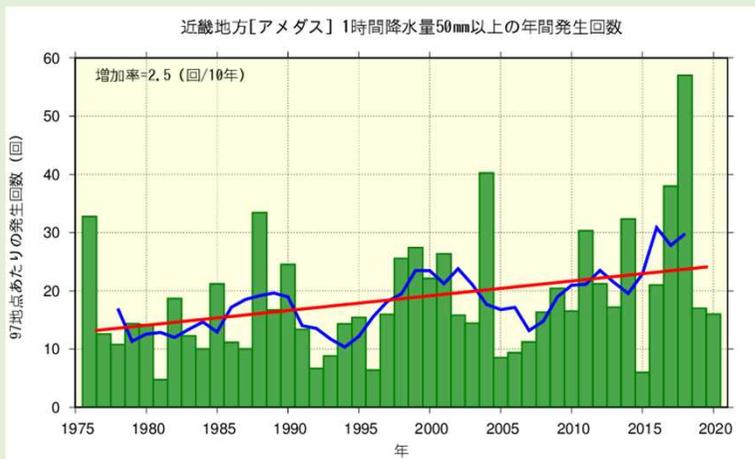
大阪では年平均気温が100年あたり約2.0℃上昇しています。猛暑日や熱帯夜※の日数については、1990年代以降の発現数は特に多くなっています。

※猛暑日：日最高気温35℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上



雨の変化

近畿地方では、短時間に降る非常に激しい雨（1時間降水量50mm以上）の回数には増加傾向が見られます。



追加的な緩和策なし

将来はどのようなかな？



パリ協定の2℃目標達成



これからの変化

気温の変化

大阪府の年平均気温は約4.2℃上昇します

猛暑日日数	約40日増加 ↑
真夏日日数	約60日増加 ↑
熱帯夜日数	約63日増加 ↑
冬日日数	約28日減少 ↓

猛暑日：日最高気温35℃以上
真夏日：日最高気温30℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上
冬日：日最低気温0℃未満

雨の変化

近畿地方に降る非常に激しい雨※¹の回数は、約2.4倍に増加します

※¹：1時間降水量50mm以上

日降水量200mm以上の回数	約2.7倍に増加 ↑
年最大日降水量※ ²	約1.2倍に増加 ↑
無降水日日数	約12日増加 ↑

※²：1年で最も多くの雨が降った日の降水量

「これからの変化」とは、21世紀末（2076～2095年の平均）の予測を20世紀末（1980～1999年）と比較したものです。

気温の変化

大阪府の年平均気温は約1.3℃上昇します

猛暑日日数	約8日増加 ↑
真夏日日数	約19日増加 ↑
熱帯夜日数	約18日増加 ↑
冬日日数	約13日減少 ↓

猛暑日：日最高気温35℃以上
真夏日：日最高気温30℃以上
熱帯夜：日最低気温25℃以上
冬日：日最低気温0℃未満

雨の変化

近畿地方に降る非常に激しい雨※¹の回数は、約1.9倍に増加します

※¹：1時間降水量50mm以上

日降水量200mm以上の回数	約2.0倍に増加 ↑
年最大日降水量※ ²	約1.1倍に増加 ↑
無降水日日数	約4日増加 ↑

※²：1年で最も多くの雨が降った日の降水量